

# 大使館便り

第160号 平成28年7月5日  
在ポルトガル日本国大使館

## 1. 東博史大使からのメッセージ

## 2. 政治・経済関係

- (1) オーシャンズ・ミーティングの開催
- (2) 有権者の7割、地方選挙後のコスタ政権存続を予測
- (3) 長期国債の発行
- (4) 「ポルトガルの日」、外国で初めて開催
- (5) 英国のEU離脱に対するポルトガル大統領、首相の見解

## 3. 広報・文化関係

### 【イベント】

- (1) PARALLEL NIPPON — 日本の現代建築展 1996-2006
- (2) 東京オペラ協会によるオペラ「キリシタン大名 高山右近」公演

### 【報告】

- (3) 邦楽器演奏グループ「どんがら」によるオビドス公演、及び「どんがら」&鈴木猛利書家による邦楽器と書のデモンストレーション
- (4) 第6回「日本祭り」(Festa do Japão)の開催
- (5) 鈴木猛利書家によるワークショップ
- (6) ファルマシー博物館における展示品(富山の薬売り)寄贈式典

### 【お知らせ】

- (7) 広報文化班からのお知らせ

## 4. 領事関係

- (1) 在留届に関するお願い
- (2) 当館領事業務へのご意見募集

## 1. 東博史大使からのメッセージ

後日、別途掲載します。

## 2. 政治・経済関係

### (1) オーシャンズ・ミーティングの開催

6月2日～4日、昨年のブルー・ウィークに引き続き、①閣僚級会合、②国際カンファレンス、③オーシャンズ・ビジネス・ウィーク（海洋関連企業による展示会）で構成されたポルトガル政府主催のオーシャンズ・ミーティングが、リスボン・コンGRESS・センターで開催されました。東大使が我が国を代表して出席した閣僚級会合（3日）には、アントニオ・コスタ首相、アナ・パウラ・ヴィトリノ海洋大臣をはじめ、40か国以上、8つの国際機関の代表が出席し、海洋に関するあらゆる機関の団結による海洋の持続的利用に向けた地域間協力、国際協力の促進について話し合われました。

### (2) 有権者の7割、地方選挙後のコスタ政権存続を予測

6月6日に発表されたアキシマージェ社による世論調査結果によると、ポルトガル国内の73.3%の有権者が、アントニオ・コスタ社会党政権は2017年秋頃に予定される統一地方選挙以降も存続すると考えていることが分かりました。残り18.8%は同地方選挙のタイミングで、5.1%はそれ以前までに政権は倒れると回答しました。「分からない」は2.8%でした。

本調査は、5月30～6月1日の3日間、無作為に抽出したポルトガル国内在住の有権者603人を対象に固定及び携帯電話を通じて行い、回答率は85.4%、誤差率±4.0%でした。

### (3) 長期国債の発行

6月8日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、5年物及び9年物長期国債の入札を実施し、総額10億ユーロを調達しました。落札平均利回りは5年物が1.843%、9年物が2.859%でした。

### (4) 「ポルトガルの日」、外国で初めて開催

6月10日、マルセロ・レベロ・デ・ソウザ大統領は、国祭日の「ポルトガルの日（16世紀の大詩人カモンイスの命日）」の記念式典を午前リスボン市内のコメルシオ広場で開いた後、午後にパリでも開催しました。同式典の外国開催は初めてのことです。

パリでの式典は、アントニオ・コスタ首相やオランダ仏大統領出席のもと、パリ市議会の集会場で行われ、ソウザ大統領は約800人のポルトガル人移住者とその家族を前に、祖国から離れた土地で懸命に働き、貧困や困難を乗り越えてきたその勇気と功績をフランス語でたたえました。その上で「最大のポルトガル人コミュニティが存在するパリ市は、ポルトガル第2の首都である。両国は社会、経済、雇用、難民といった問題について共通のビジョンを持っている」などと語りました。

ソウザ大統領とコスタ首相は12日まで現地に滞在し、ポルトガル人コミュニティーとの交流を深めました。

### (5) 英国のEU離脱に対するポルトガル大統領、首相の見解

6月24日、EU離脱を決めた英国の国民投票結果が発表されたことを受け、英国のEU残留を求めてきたマルセロ・レベロ・デ・ソウザ大統領は同日、英国国民の決断を平静な気持ちで尊重すべきとしつつも、「我々を唯一深く悲しませること」との見解を示しました。ソウザ大統領は、「今回の英国の決定を受けたとしても、ポルトガルの利益・関心事は英国内で働き生活するポルトガル人のそれ同様、今後も変わらないことを強く確信している。英国は（EUから離脱したとしても）文化、経済、平和、安全保障面においても、欧州の一国であることに変わりはない」などと述べました。

アントニオ・コスタ首相も同日、「今日はEUにとって悲しみの日」と記者団に述べた上で、「問題は加盟国の増減ではなく、より良いEUの実現である。欧州市民はこれ以上の官僚主義を望んでおらず、テロ撲滅に向けたさらなる安全を求めている。（英国を除いた）EU加盟27か国は、各国民に向けてEUが崩壊への道を歩んでいないサインを示すタイミングにあろう。また、（EU離脱につながった）英国国民の不満を知り、その答えを用意する必要がある」などとコメントしました。

## 3. 広報・文化関係 (イベント)

### (1) PARALLEL NIPPON — 日本の現代建築展 1996-2006

日本国大使館及び国際交流基金の共催により、伊東豊雄、坂茂、妹島和世、西沢立衛、安藤忠雄、槇文彦、丹下健三ら世界的に著名な日本人建築家の建築展が下記の通り開催されます。およそ100点に及ぶ様々な建築作品の写真・図面・模型の展示を通して映し出される現代日本のダイナミズムをご鑑賞下さい。

日時：8月4日（木）～28日（日）

会場：オリエント博物館 (Museu do Oriente)

住所：Avenida Brasília, Doca de Alcântara (Norte) 1350-352 Lisboa

お問い合わせ：[info@foriente.pt](mailto:info@foriente.pt)、213 585 200

URL：<http://www.museudoorientep.pt/2651/parallel-nippon.htm>



## (2) 東京オペラ協会によるオペラ「キリシタン大名 高山右近」公演

東京オペラ協会による「高山右近」をテーマとした標記オペラ公演が、以下の通り開催されます。詳細は下記までお問い合わせいただくか、URL をご参照下さい。

日時：7月29日（金） 21：00～

会場：Auditório Sra. da Boa Nova

住所：Rua Campo Santo, 441 2765-307 Estoril

お問い合わせ：[fel@festorilisbon.com](mailto:fel@festorilisbon.com)/ 21 466 0081

URL：[www.festorilisbon.com](http://www.festorilisbon.com)



## (報告)

(3) 邦楽器演奏グループ「どんがら」によるオビドス公演、及び「どんがら」&鈴木猛利書家による邦楽器と書のデモンストレーション

6月16日（木）、オビドス市サンタマリア広場において、邦楽器演奏グループ「どんがら」による野外公演が開催されました。また、17日（金）には、翌18日開催の「日本祭り」のPRも兼ね、祭り会場正面のヴァスコダガマ・ショッピングセンター内で、「どんがら」の演奏に合わせて鈴木猛利書家が「大航海」の大筆揮毫を披露いたしました。

「どんがら」・鈴木猛利書家共に第6回「日本祭り」に参加のため当地に滞在中であり、両日も、日本の伝統文化愛好者に交じって多くの道行く人が足を止め、恰好の日本文化紹介並びに「日本祭り」広報の機会となりました。



#### (4) 第6回「日本祭り」(Festa do Japão) の開催

6月18日(土)、パルケ・ダス・ナソンイス地区の Rossio dos Olivais において、日本国大使館、リスボン市、EGEAC、ポルトガル日本友好協会、ポルトガル日本人会の共催により、リスボン祭の一環として第6回「日本祭り」が開催されました。今年で第6回目となる「日本祭り」は、過去5回の会場であるベレン地区の「日本公園」から新たに上記パルケ・ダス・ナソンイス地区に場所を移し、生け花・書道・俳句・邦楽器演奏などの日本の伝統文化を始め、J-POP・パラパラダンスといったポップカルチャーや「日本〇×クイズ」といったアトラクション、加えて、今やポルトガルでも大人気の日本食他、日本企業や日本語補習校のブース、また、日本関連の出店など盛りだくさんのプログラムで来場者をお迎えしました。

オープニングでは、主催者挨拶の後、鏡割りで日本酒が振舞われ、続いて和太鼓等邦楽器演奏グループ「どんがら」の演奏と鈴木猛利書家による書道のデモンストレーション、さらにJロックを歌うポルトガル人デュオ「HURRY GO ROUND」の公演やポルトガル人大学生と「どんがら」の和太鼓・篠笛共演、各種武道団体による武道デモンストレーション、日本大使館チームによるパラパラダンス披露や「日本〇×クイズ」、舞台下での鈴木書家による「一期一会」の大筆揮毫などが行なわれました。終日多くの市民で賑わう中、日没後は、灯籠流しで夏祭りさながらの雰囲気を楽しみつつ、「どんがら」のダイナミックな演奏と盆踊りによるフィナーレで第6回「日本祭り」は幕を閉じました。

日本祭りに参加いただいた市民の皆様、開催にあたりご協力いただいた関係各団体に対し厚くお礼を申し上げます。





#### (5) 鈴木猛利書家によるワークショップ

6月19日(日)、国際交流基金の協力のもと、オリエン特博物館において鈴木猛利書家の指導による書道ワークショップ(2セッション)を開催しました。まず、筆を執る際の正しい姿勢、筆の持ち方、「三」と「川」の字を例にとって基本的な線の書法とその違いについて学び、続いて各参加者が選んだ好きな言葉を鈴木書家のお手本とともに繰り返し練習の後、各自一度のチャンスに気合を込めて色紙に清書し、そこに鈴木書家が朱で押印して各参加者の受講の成果を物語る“傑作”が完成しました。

昨年に続きポルトガルで2年連続となる今回のワークショップでは、2度目の受講となる参加者もおり、終始和やかな雰囲気の中にも、書に真剣に向き合う参加者の姿が見られ、大変有意義な日本の伝統文化体験のひとつとなりました。



#### (6) ファルマシー博物館における展示品寄贈式典

6月21日(火)、東大使は、森富山市長一行によるファルマシー博物館(Museu da Farmacia)への展示品寄贈式典に出席しました。式典においては、一行より柳行李、薬箱、そろばん、懸場帳、石版、薬パッケージなどの富山の薬売りを紹介する、江戸・明治時代の物を含む歴史的価値の高い展示品がネト博物館館長に手交されました。ファルマシー博物館は、ポルトガルのみならず世界の調剤および薬局の歴史を紹介した世界的にも珍しい博物館であり、今後、この博物館において富山の医薬品産業発展の歴史が紹介されることとなります。



#### (お知らせ)

##### (7) 広報文化班からのお知らせ

今後、当館主(共)催による日本関連イベント開催に当たり、大使館便りに加えてEメールによる招待状やイベント情報の送付を希望される方は、[cultural@lb.mofa.go.jp](mailto:cultural@lb.mofa.go.jp)までご連絡下さい。

## 4. 領事関係

### (1) 在留届に関するお願い

近年、海外で生活する日本人が急増し、このため海外で事件や事故等思わぬ災害に巻き込まれるケースが増加しています。万一、在留邦人の皆様がこのような事態に遭われた場合には、日本国大使館や総領事館は「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先又は日本国内の連絡先等を確認して援護活動を行っています。

当館でも、皆様に提出いただいた在留届により連絡先の把握を行い、大使館からの海外危険情報や広報文化活動などの情報提供、緊急時の連絡網整備、安否確認に役立てているところです。

このため、**ポルトガル国内での転居、日本への帰国、他国への転出等**、在留届の届け出事項に変更が生じた後、引き続きこの大使館便りをご覧の方は、速やかにその旨を下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

また、皆様の友人・知人で「ポルトガルに居住しているが、まだ在留届を提出していない方」がおられましたら、届出を行うようご案内下さい。



## (2) 当館領事業務へのご意見募集

当館では、領事サービスの向上を図るため、皆様からのご意見を募集しています。どのような些細な事柄でも結構ですので、ご意見・ご要望等があれば、お気軽に下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

在ポルトガル日本国大使館（領事班）

住所：Avenida da Liberdade 245-6 1269-033 Lisboa

TEL：21-311-0560 FAX：21-354-3975

E-mail：[consular@lb.mofa.go.jp](mailto:consular@lb.mofa.go.jp)